

担当者名 / Instructor 中川 克

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士の国家試験では、毎年150問中10問が医学一般から出題されている。本講義は社会福祉士を目指すものの必修講義として、医学・医療の基礎知識を習得し、国家試験に合格することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会福祉士の試験に合格する。
- ② 福祉に従事するものとしての医学的基礎知識を習得する。
- ③ 個人の健康管理に資する知識を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	臨床医学の概観、人体の構造と機能	医学の歩み、解剖と生理
2	人体の各器官の構造と機能	細胞、血液、呼吸器、消化器・代謝、泌尿器、皮膚、循環器
3	人体の各器官の構造と機能	支持運動器官、内分泌、神経、感覚器、生殖器
4	現代社会と疾病	先天性疾患、遺伝
5	感染症	伝染病予防法、新感染症法
6	感染症	性感染症、国際協力
7	結核、これからの感染症	結核、結核対策、麻疹・風疹、食中毒、疥癬、日和見感染
8	生活習慣病・メボリックシンドローム	一次・二次・三次予防、悪性新生物、虚血性心疾患、脳血管障害、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症
9	高齢者に多い他の内科疾患、老化と身体的変化	腎疾患、老化現象、寿命、廃用症候群、寝たきり
10	高齢者の病気	痴呆・認知症、骨粗鬆症
11	高齢者の病気	変形性関節症、白内障、難聴、嚥下障害、褥瘡
12	公衆衛生	衛生行政、人口統計、人口静態、人口動態
13	精神保健	精神障害、分類、統合失調症、躁鬱病、アルコール精神病、症状精神病、パニック障害、脅迫性障害
14	精神保健	保健医療対策、精神保健福祉法、人権擁護、社会復帰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

14回の講義のみで上記テーマを詳細に講義することは不可能である。
したがって、各自で予習・復習に努めることが必須である。
特に、国家試験合格を目指すものは、社会福祉士国家試験の問題集に取り組むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	記述問題・択一問題
レポート試験	20 %	11月頃に一回のレポートを求める。 課題は授業にて提示する。

各人が積極的に取り組まない限り習得が困難な科目である。
したがって、出欠を成績評価の基準とはしない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

14回の講義のみで上記テーマを詳細に講義することは不可能である。(最終講義日に試験を行う)
したがって、各自で予習・復習に努めることが必須である。
特に、国家試験合格を目指すものは、社会福祉士国家試験の問題集に取り組むこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版第4版 社会福祉士養成講座 13「医学一般」	福祉士養成講座編集委員会 / 中央法規出版 / 978-4-8058-2826-7 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

第16回～第18回社会福祉士国家試験解説集 社団法人日本社会福祉士養成校協会＝編集／中央法規出版／978-4-8058-2886-1

第19回社会福祉士国家試験解説集 社団法人日本社会福祉士養成校協会＝編集／中央法規出版／978-4-8058-2887-8

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

国立感染症研究所感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 沖野 良枝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本概論では、福祉専門職として必要な介護に関する諸概念および専門知識と援助の方法について学習する。具体的には、今日の介護問題の背景と現状、介護保険制度を主とする社会施策の学習を通して、主として高齢者と家族を中心にその立場や状況を明らかにし、専門職の果たす役割・責任を理解する。さらに、要介護者のニーズに沿ったサービスに必要な視点として健康、生活、自律の概念を学習し、対象の理解、生活援助の意味と認識を深める。問題解決技法としての介護過程、寝たきり、認知症、終末期の対象者・家族に対する根拠に基づいた援助の基本、対象者・家族の生命、身体、精神、生活上の安全と人権尊重の重要性を理解し、専門職者としての責務について自覚を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 介護の概念や基本原則、介護の場や介護に係る専門職の種類と連携など介護の概要を理解する。
2. 今日の介護問題の背景と現状を理解することにより、介護対象者および家族の立場や状況に対する理解と認識ができる。
3. 人にとっての健康、生活、自律の意味、在り方を学ぶことにより、介護対象者・家族の生活援助の意義を認識できる。
4. 介護問題解決の方法論、援助技術の原理を根拠に基づき理解できる。
5. 寝たきり、認知症、終末期など特定領域別の対象者・家族の状況理解、援助の特徴と基本的な関わりの方法がわかる。
6. 対象者・家族の人権尊重の重要性および安全確保のための倫理的、法的根拠が理解できる。
7. 専門職としての理念、態度、在り方について理解でき、その責務を自覚する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、専門知識や関連情報、援助技術の学習に留まることなく、人に関する幅広い視点、多様で相対的思考でマクロに学習する立場で受講される事を希望する。また、社会福祉概論、社会福祉援助技術、ソーシャルワーク、高齢者福祉、家族社会学、医学一般など専門基礎科目の多くを履修している2年次以降の受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	1. 介護の理解 1)介護の概念と歴史	介護の概念、介護の原則、介護の歴史
第2回目	2)今日の介護問題とその背景	高齢社会、介護問題、介護問題の背景
第3回目	2. 介護対象者の理解 1)人・対象者にとっての生活	人の生活、家族、地域、クオリティ・オブ・ライフ
第4回目	2)人・対象者にとっての健康	健康の概念、健康観の変遷、健康の意味
第5回目	3)人・対象者にとっての自律/自立	自律、自立、自立支援
第6回目	3. 介護のしくみ 1)介護の場(在宅、施設)	介護の場、施設、在宅
第7回目	2)介護を担う人と役割 3)保健・医療・福祉の連携	介護者、介護者の役割、保健・医療・福祉、専門職、連携
第8回目	4)介護保険制度の概要	介護の制度、介護保険制度、要介護認定、要介護、要支援、在宅サービス、施設サービス、介護予防
第9回目	4. 介護のスキル 1)介護(問題解決)過程 2)ケアマネジメントの方法	介護過程、問題解決技法、ケアマネジメント、ケアプラン
第10回目	2)ADL(日常生活)援助	ADL、IADL、援助の原則
第11回目	3)主な領域と介護 ①寝たきり高齢者と介護	寝たきり高齢者、寝たきりの予防、介護の方法
第12回目	②認知症高齢者と介護	アルツハイマー病、脳血管性認知症、介護の方法
第13回目	③終末期と死の捉え方	死の捉え方、尊厳死、安楽死
第14回目	5. 介護における倫理 1)対象者・家族の人権の保護 2)安全管理 3)介護専門職の責務	介護倫理、人権擁護、インフォームド・コンセント、意思決定支援、安全管理、専門職の責務

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義のレジュメ、資料および紹介した著書、文献などによる予習・復習などの自己学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論などの基本的理解、知識の修得状況を評価・判定する。
平常点(日常的)	0 %	6割(8回)以上の授業の出席を、定期試験の受験要件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

提示した授業計画に沿って授業は進める予定である。教科書やレジュメによる事前学習および授業後の復習が、授業理解を円滑にする前提と考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新社会福祉士養成講座14 介護概論	社会福祉士養成講座編集委員会 / 中央法規出版株式会社 / 4-8058-2044-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神医学Ⅰ S § 精神医学Ⅰ S

13050

担当者名 / Instructor 石坂 好樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

福祉領域に関わるものにとっては、精神医学的知識は欠かせない。この講義においては、精神医学の歴史、精神医学の背後にある生物学的知識および心理学的知識を理解し、また、具体的な精神医学臨床で出現するの症状論の記述法を学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

精神医学の歴史の理解
精神保健福祉士に必要とされる程度の脳の解剖学的、薬理学的知識の習得
精神症状を理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講生は精神障害リハビリテーション論Ⅰ、リハビリテーション論ⅡⅠ、精神リハビリテーション学Ⅰを受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神医学の歴史	
第2回	精神医学の歴史	
第3回	脳の解剖学	
第4回	脳の解剖学	
第5回	脳の生理学	
第6回	精神障害症状論	
第7回	精神障害症状論	
第8回	精神障害症状論	
第9回	精神障害症状論	
第10回	精神障害症状論	
第11回	精神障害症状論	
第12回	精神障害症状論	
第13回	精神障害症状論	
第14回	精神障害症状論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	最終講義日試験の成績により判定する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

精神保健福祉士資格の国家試験受験を希望する学生は必ず受講してください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神医学	小谷憲司、谷野亮編集 / へるす出版 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神科リハビリテーション学 S § 精神科リハビリテーション学II S

15529

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

前期の精神科リハビリテーション論では、精神科ソーシャルワーカーとして精神障害者のリハビリテーションに取り組む視座を明確にしスキルの概要を学ぶことに重点をおいた。精神科リハビリテーション学では、精神科リハビリテーションのプロセスや方法につき学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

精神科リハビリテーションを展開する上で必要な資源、プロセス、スキルに関する理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神障害リハビリテーション論を履修しておくことが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに:精神科リハビリテーションの歴史	ILO 呉秀三 治療共同体 生活臨床
第2回	精神科リハビリテーションの概念	リハビリテーション
第3回	精神保健福祉士が行う医学的リハビリテーション	集団精神療法 SST デイケア ナイトケア
第4回	精神保健福祉士が行う社会的リハビリテーション	生活のしづらさ
第5回	地域リハビリテーションのベストプラクティス	日本のベストプラクティス
第6回	カナダとイギリスにおける地域リハビリテーション	CALGARY model 住居サービス Alternative service ACT CPN
第7回	OTP(Optimal Treatment Project)と地域生活支援—地域リハビリテーションにとって必要な条件—	多職種支援 統合的アプローチ ICF
第8回	ACT(Assertive Community Treatment)プログラムと重度精神障害者リハビリテーション	重度障害者 マディソンモデル、
第9回	精神科リハビリテーションのプロセス①	計画 評価
第10回	精神科リハビリテーションのプロセス②	評価尺度 QOL評価尺度 精神症状評価尺度 社会生活評価尺度
第11回	精神科リハビリテーションの場とアプローチの方法①	病院 社会復帰施設
第12回	精神科リハビリテーションの場とアプローチの方法②	地域
第13回	精神科リハビリテーションとケアマネジメント手法①	ケアマネジメントの基本思想
第14回	精神科リハビリテーションとケアマネジメント手法②	類型 活動の手順
第15回	総括講義 点検試験	精神科リハビリテーションの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	出席状況と講義への参加姿勢を判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーション学	日本精神保健福祉士養成校協会 / 中央法規 / 978-4-8058-2813-7 /

教科書は、精神障害リハビリテーション論(前期開講科目と共通)。なお、教科書は、精神科リハビリテーションの方が頻回に利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害リハビリテーション学	蜂谷英彦 岡上和夫 他 / 金剛出版 / 4-7724-0663-8 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神障害リハビリテーション論 S § 精神リハビリテーション学 I S

13049

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人生の途上で精神障害と出会った人が、その障害と向き合い価値ある人生を創造することを科学的に支援する取り組みが精神科リハビリテーションである。この授業では、統合失調症圏を中心に精神障害者の社会参加支援の実際についてふれ、精神障害の生活と支援をどう理解するのかを学び、精神科ソーシャルワーカーとして精神障害者のリハビリテーションに取り組む視座とスキルを明確にする。

到達目標 / Attainment Objectives

生活モデルに立脚しながら精神科リハビリテーションに取り組む専門職として精神科ソーシャルワーカーに求められる視座を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神医学
精神保健福祉援助技術総論・各論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション:精神科リハビリテーションと精神保健福祉支援の歴史	地域居住プログラム、退院患者クラブ
第2回	精神障害者の生活実態	生活困難状態 援助必要性
第3回	精神科リハビリテーションの対象①—統合失調症圏を中心に—	精神障害 特性 認知の障害 統合の障害
第4回	精神科リハビリテーションの対象②—統合失調症圏を中心に—	生活の仕方の障害 対人関係の障害 働くことの障害
第5回	精神科リハビリテーションの対象③—神経症圏を中心に—	不安 自己尊厳 自己肯定
第6回	リハビリテーションの場とプロセス①—病院、診療所—	SST、デイケア
第7回	リハビリテーションの場とプロセス②—地域支援機関—	保健所、危機、アウトリーチ コミュニティ
第8回	リハビリテーションの場とプロセス③—就労—	過渡的雇用、雇用管理、ジョブコーチ
第9回	専門職としてのスタンス	場の力動 エンパワメント
第10回	長い入院とリハビリテーション—当事者へのアプローチ—	院内寛解、認知障害、施設症
第11回	親へのアンビバレントな感情や行動とリハビリテーション—家族のアプローチ—	EE、危機介入
第12回	地域での生活と支援	ハードな資源 ソフトな資源 当事者の役割 市民の役割
第13回	リハビリテーションとピアスタッフ	セルフヘルプ ピアスタッフ ピアアドボケーション
第14回	共同作業所実践が築いてきたリハビリテーションモデル	なかま 当事者観 フレンドシップ
第15回	総括講義 点検試験	精神科リハの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	出席状況ならびに講義への積極的参加を評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーション学	日本精神保健福祉士養成校協会 / 中央法規 / 978-4-8058-2813-7 /
教科書は、精神科リハビリテーション学(後期開講科目と共通)	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーションケースブック	野田文隆 寺田久子 / 医学書院 / 4-260-11883-8 C3047 /
精神障害リハビリテーション学	蜂谷英彦 岡上和夫 他 / 金剛出版 / 4-7724-0663-8 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神障害者の人権とくらし S § 精神保健福祉論II S

13089

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な科目であることから、精神障害者の視点に立って人権とは何か、それを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、その現状と課題を取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として、精神障害者の人権をどう保障するか。そのためには客観的な視点が必要かを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、進め方
2	障害者の人権保障	世界人権宣言、国際障害者年、障害者感の変遷
3	精神障害者の人権保障	精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則
4	わが国における障害者の人権保障の枠組み	障害者基本法、障害者プラン
5	精神医療における権利擁護①	インフォームド・コンセント、病院内の審査体制
6	精神医療における権利擁護②	精神医療審査会、実地指導・実地審査
7	権利擁護と市民運動	精神医療オンブズマン
8	人権侵害の現状	宇都宮病院事件、大和川病院事件
9	権利擁護の取り組み	欠格条項、青年後見制度、アドボカシー
10	偏見・差別・スティグマ	権利擁護の担い手としてのPSW
11	精神援助活動①	精神科病院での相談援助
12	精神援助活動②	地域(保健所等)での相談援助
13	精神援助活動③	災害時の相談援助
14	精神保健福祉士の役割・課題	PSWのアイデンティティ
15	「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	出席状況と受講態度(発言内容を含)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『精神保健福祉論』精神保健福祉士養成講座4	日本精神保健福祉士養成校協会 / 中央法規 / SBN978-4-8058-2814-4 / 定価2,625円(税込み)

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
我が国の精神保健福祉 平成18年度版	精神保健福祉研究会 / 太陽美術 / ISBN978-4-906276-75-2 / 2,500円(税込み)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 辻 正之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「こころ」の働きやストレス、精神疾患、精神医療など「精神保健」の基礎論を学習します。

到達目標 / Attainment Objectives

「精神保健の基礎となる知識を習得し、概念を理解して、それらを説明できる」水準への到達を目標に致しましょう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回4/14	授業の概要と導入(科目のガイダンス)	シラバス、「こころ」の働き、ストレス、精神疾患、診断分類、チーム医療
第2回4/21	精神科診断(1) 最初の診察・面接	主訴、精神的現在症、問診
第3回4/28	精神科診断(2) 精神症状	知覚、思考、感情、意欲・行動、表情、自我
第4回5/12	統合失調症	妄想、幻覚、解体した会話と行動、感情の平板化、4A症状
第5回5/19	気分障害	躁うつ病、躁病、うつ病、内因性、心因性
第6回5/24(土)	神経症 ICD-10の疾病分類	葛藤、不安、ICD-10
第7回5/26	パーソナリティ障害 思春期の精神障害	同一性、思春期心性、登校拒否、対人恐怖、摂食障害
第8回6/2	老年期の精神障害	老化、対象喪失、認知症、老年期うつ病
第9回6/9	特別講師「講義」: 崔秀賢岩倉病院長	精神医療・精神科病院の歴史、開放医療、「病院」と「地域」
第10回6/16	「ストレス病棟」と職場のメンタルヘルス	ストレス病棟、うつ病、チーム医療
第11回6/23	精神療法	精神療法的態度、精神療法的技法、治療メカニズム、治療的变化、治療構造
第12回6/30	特別講師「講義」: 大谷和世岩倉病院副看護部長	精神科看護、「こころ」と「身体」、医療現場の実際
第13回7/7	精神科薬物療法 「腕試しテスト」(7/21)の事前説明	向精神薬、プラセボ、作用要因、転移と逆転移
第14回7/14	精神保健スタッフに求められる技能	精神症状、効果的なコミュニケーション、BPRS
第15回7/21(海の日)	45分間の腕試しテスト+45分間の講義(事後説明・解説、科目のまとめ)	シラバスのレビュー、「到達目標」と「自己評価」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テレビや新聞の精神医療・精神保健に関する報道などにも関心が持てれば更に良いと思います。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	35 %	第15回授業(7/21)で45分間の「腕試しテスト」を行ないます。
平常点(日常的)	65 %	授業時間内に書いて頂く簡単なレポートに対する評価に加えて、受講状況による加点を行ないます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

白紙の状態を受講して頂いて構いません。授業内で集中的に学習して下さい。

教科書 / Textbooks

テキストは用いません。必要時にレジュメなどを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ストレスとうつ	徳永雄一郎 / 西日本新聞社 / 特に第5,8,10回の授業内容の理解を深めたいときの参考書的新書です。
事例で学ぶSST	高柴哲次郎 / 日総研出版 / 特に第3,4,14回の授業内容の理解を深めたいときの参考書です。
禪的森田療法	宇佐晋一 / 三聖病院内三省会 / 森田療法を原法に忠実に継承して来られている臨床医の貴重な「エッセイ」と「日記指導事例」です

上記の3冊は気軽に読める書籍です。
授業の理解にだけでなく、自分自身の健康維持にも役立つかもしれません。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

岩倉病院 <http://www.iwakura-hp.net/>
不知火病院 <http://shiranui-byoin.or.jp>
日本精神神経学会 <http://www.jpsn.or.jp>
日本うつ病学会 <http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/>
福岡BPRS評価トレーニング協会 <http://www.dia-net.ne.jp/~bprs/home.htm>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・間接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
- ・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	コミュニティワークとは	時代に応じた概念の変化
第2回	精神障害者を対象とした地域援助技術	ソーシャルワーク・リサーチ
第3回	間接援助技術の内容と機能	ソーシャル・プランニング
第4回	関連専門援助技術について	心理療法、家族療法、面接技法
第5回	地域福祉の枠組み	地域福祉をめぐる考え方の違い
第6回	これからの地域福祉	ボランティア活動、セルフヘルプグループへの支援
第7回	コミュニティワークの理論①コミュニティ・ディベロップメント	イネープリング、セツルメントとパターンリズム、ラジカル・ワーカー
第8回	コミュニティワークの理論②ポリティカル・エンパワメント	多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定
第9回	コミュニティワークの理論③プランニング	新しいプランニング理論
第10回	コミュニティワークの理論④プログラム・ディベロップメント	インターグループワーク、多元主義と資源配分
第11回	コミュニティワークの理論⑤コミュニティ・リエゾン	ボランティアリズム、当事者参加促進策
第12回	コミュニティワークの将来	理論のまとめ、社会変革の理想
第13回	まとめ	
第14回	予備日	
第15回	試験日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてペーパー試験を行う(試験時間:1時間)。
平常点(日常的)	30 %	コミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www.005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>
日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>

その他 / Others

精神保健福祉の現状と課題 S § 精神保健福祉論III S

13142

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神障害者は、長い間にわたる隔離収容政策の下で地域で当たり前で生きてきた権利が奪われてきた。精神障害当事者の人権を保障する働き手となる際に必要な障害者観や実践観、さらに実践上の現状と課題をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉上の切実な要求を持つ人の人権を保障する為に必要な障害者観や実践観を理解し、政策や実践課題に関心を持つ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神障害者観と精神保健福祉の流れ	隔離収容政策 スティグマ パターナリズム
第2回	PSWと精神障害者の地域生活	危機 連携 包括的地域生活支援
第3回	パートナーとしてのPSW 実践の価値	パートナー フレンドシップライン
第4回	精神障害者と精神科医療	法34条 受療アクセス
第5回	精神障害者と精神科医療	社会的入院 施設症 当事者ニーズ
第6回	精神障害者と暮らしの場	家族 グループホーム ケアホーム
第7回	精神障害者といこいの場	なかま 自治 自律
第8回	精神障害者と就労	就労支援 ジョブコーチ 適応から参加
第9回	青年期の課題を持つ当事者達と支援	ひきこもり 摂食障害 リストカット
第10回	災害・事故の被害と支援	トラウマ PTSD 災害支援
第11回	触法精神障害者と回復支援	池田小学校事件 医療観察法
第12回	他の精神保健福祉ニーズを持つ人の生活と支援	薬害HIV 遺族
第13回	当事者からの発言	薬害HIV遺族
第14回	当事者からの発言	統合失調症 ひきこもり
第15回	総括講義 点検試験	精神保健福祉の政策的課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	最終講義日に試験に代わるレポート課題を提起し、即日作成。
平常点(日常的)	50 %	講義は、議論を重視する。積極的に議論に参加すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。

☆精神障害者に関わる議論すべき事例が生じた時には講義計画を変更する。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めないが、講義内で紹介した書籍には必ず目を通すこと

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害をもつ人が地域でくらししていくためにー 介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平／かがわ出版／4-87699-840-x／
障害者のくらしはまもれるか	中内福成、植田章、田中智子、井上泰司、峰島厚、山本耕平／かがわ出版／4-7803-0047-9 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健福祉援助技術各論Ⅰ 精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

13093

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者を対象とした直接援助技術(ケースワーク、グループワーク)について学び、援助技術を習得することを目的とする。講義では、直接援助技術の実践に必要な理論を学び、演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動について総合的に理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・直接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
- ・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉の必修科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークの周辺理論	交流分析、防衛機制
第2回	精神障害者を対象としたケースワーク①	面接の意味と目的
第3回	精神障害者を対象としたケースワーク②	面接技法
第4回	精神障害者を対象としたケースワーク③	記録の内容
第5回	精神障害者を対象としたケースワークの展開①	インテーク、アセスメント
第6回	精神障害者を対象としたケースワークの展開②	プランニング、モニタリング、評価
第7回	事例検討	ケアマネジメント計画
第8回	精神障害者を対象としたグループワーク①	歴史、目的
第9回	精神障害者を対象としたグループワーク②	メンバーの選択、グループワークの準備
第10回	精神障害者を対象としたグループワーク③	グループワークの始め方、規範の形成
第11回	グループの発展段階と構造	発展の5段階
第12回	グループへの介入、評価、終結	個人・環境への介入、グループの葛藤
第13回	まとめ	
第14回	予備日	
第15回	試験日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてペーパー試験を行う(試験時間:1時間)。
平常点(日常的)	30 %	コミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www.005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>
日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な科目であることから、精神障害者の視点に立って人権とは何か、それを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、歴史を振り返りながらその現状と課題をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神障害者は長い間、医療という枠組みの中で精神科病院への収容政策が取り入れられて来た。しかし、近年福祉という概念が導入された。そこで精神障害者の「自立と共生」をどうとらえるのかを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方
2	障害の概念	国際生活機能分類、我が国の法律における障害の定義
3	精神保健福祉の歴史①	精神衛生法成立まで
4	精神保健福祉の歴史②	精神衛生法から精神保健法まで
5	精神保健福祉の歴史③	精神保健福祉法
6	精神保健福祉の歴史④	障害者自立支援法
7	精神保健福祉法の概要①	ICD-10、DSM-IV
8	精神保健福祉法の概要②	移送制度と人権
9	精神保健福祉法の概要③	精神障害者保健福祉手帳
10	精神保健福祉法の概要④	精神障害者社会復帰施設の歴史と課題
11	精神保健福祉施策①	我が国の行政施策の現状と課題
12	精神保健福祉施策②	家族会活動、家族の抱える課題と展望
13	精神保健福祉施策③	退院促進支援事業の現状と課題
14	これからの精神保健福祉	統合失調症モデルからの脱却
15	「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	出席状況と受講態度(発言内容を含)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『精神保健福祉論』精神保健福祉士養成講座 4	日本精神保健福祉士養成校協会 / 中央法規 / ISBN978-4-8058-2814-4 / 定価2,625円(税込み)

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
我が国の精神保健福祉 平成18年度版	精神保健福祉研究会 / 太陽美術 / ISBN978-4-906276-75-2 / 定価2,500円(税込み)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

臨床精神医学Ⅰ § 精神医学ⅡⅠ

15530

担当者名 / Instructor 石坂 好樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

前期の精神医学ⅠⅠにつづいて、精神医学の主要な疾患について、その症状が経過および原因さらには治療法をできるだけわかりやすく論じる。

到達目標 / Attainment Objectives

この精神疾患の症状の成り立ち、症状の把握、治療法概略などに関する知識の習得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期の精神医学ⅠⅠおよび精神リハビリテーション学も受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	器質性精神障害論	
第2回	器質性精神障害論	
第3回	統合失調症論	
第4回	統合失調症論	
第5回	統合失調症論	
第6回	気分障害論	
第7回	気分障害論	
第8回	不安性障害論	
第9回	不安性障害論	
第10回	解離性障害論	
第11回	児童期の精神障害	
第12回	児童期の精神障害	
第13回	青年期の精神障害	
第14回	精神医学治療総論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神医学	精神保健福祉士養成セミナー／へるす出版／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

〔前期〕

実習先に関する十分な事前学習を行い、実習分野に関する問題状況について十分に理解し、実習分野に関係する社会福祉制度・政策についても十分な理解に到達する。

〔後期〕

社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができ、社会福祉に関する高度に専門的な学習を深めるための知見をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

なお、あわせて「社会福祉援助技術論」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	前期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	
	後期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

〔前期〕

実習先に関する十分な事前学習を行い、実習分野に関する問題状況について十分に理解し、実習分野に関係する社会福祉制度・政策についても十分な理解に到達する。

〔後期〕

社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができ、社会福祉に関する高度に専門的な学習を深めるための知見をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

なお、あわせて「社会福祉援助技術論」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	前期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	
	後期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 井上 公子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

〔前期〕

実習先に関する十分な事前学習を行い、実習分野に関する問題状況について十分に理解し、実習分野に関係する社会福祉制度・政策についても十分な理解に到達する。

〔後期〕

社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができ、社会福祉に関する高度に専門的な学習を深めるための知見をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

なお、あわせて「社会福祉援助技術論」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	前期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	
	後期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

〔前期〕

実習先に関する十分な事前学習を行い、実習分野に関する問題状況について十分に理解し、実習分野に関係する社会福祉制度・政策についても十分な理解に到達する。

〔後期〕

社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができ、社会福祉に関する高度に専門的な学習を深めるための知見をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

なお、あわせて「社会福祉援助技術論」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	前期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	
	後期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小川 栄二、芝田 英昭

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

〔前期〕

実習先に関する十分な事前学習を行い、実習分野に関する問題状況について十分に理解し、実習分野に関係する社会福祉制度・政策についても十分な理解に到達する。

〔後期〕

社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができ、社会福祉に関する高度に専門的な学習を深めるための知見をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

なお、あわせて「社会福祉援助技術論」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	前期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	
	後期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

〔前期〕

実習先に関する十分な事前学習を行い、実習分野に関する問題状況について十分に理解し、実習分野に関係する社会福祉制度・政策についても十分な理解に到達する。

〔後期〕

社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができ、社会福祉に関する高度に専門的な学習を深めるための知見をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

なお、あわせて「社会福祉援助技術論」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	前期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	
	後期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術演習 SG § 人間福祉演習III SG

12716

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

〔前期〕

実習先に関する十分な事前学習を行い、実習分野に関する問題状況について十分に理解し、実習分野に関係する社会福祉制度・政策についても十分な理解に到達する。

〔後期〕

社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができ、社会福祉に関する高度に専門的な学習を深めるための知見をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

なお、あわせて「社会福祉援助技術論」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	前期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	
	後期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

到達目標 / Attainment Objectives

〔前期〕

実習先に関する十分な事前学習を行い、実習分野に関する問題状況について十分に理解し、実習分野に関係する社会福祉制度・政策についても十分な理解に到達する。

〔後期〕

社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができ、社会福祉に関する高度に専門的な学習を深めるための知見をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

なお、あわせて「社会福祉援助技術論」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	前期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	
	後期	
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、質問内容や討論への参加度合も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導I S § 社会福祉援助技術実習指導I SG

12471

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格を取得するために履修しなければならない実習関連科目〔「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」(2年次後期)、「社会福祉援助技術現場実習」(3年次前期)、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」(3年次前期)、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」(3年次後期)、「社会福祉援助技術演習・人間福祉演習」(3年次通年)〕のひとつとして、社会福祉現場についての理解を深めることを目的とし、社会福祉援助技術実習に向けた指導を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習に向けた問題意識を明確にしつつ、社会福祉現場実習に関する諸課題の整理を行って、現場実習を行う「領域」とともに実習施設、実習機関等を決定する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- ・社会福祉士課程の必須科目。
- ・本科目の履修が、3年次の「社会福祉援助技術現場実習」の必要条件となる。
- ・2年次に本科目とあわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての基礎的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての基礎的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての基礎的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての基礎的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての基礎的理解(5)(施設見学)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	実習先の決定方法	
第11回	実習報告会	
第12回	課題についてのグループ討議(4)	
第13回	課題についてのグループ討議(5)	
第14回	実習先決定のための個別ヒアリング / 社会福祉士基礎1	
第15回	実習先決定のための個別ヒアリング / 社会福祉士基礎2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

- ・大教室での講義と小クラスでの演習、個別面談により授業を進める
- ・施設見学実習、実習報告会など授業日程を変更する場合がある。
- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にを行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度合も評価する。

日常点評価は、ガイダンスや授業への出席、レポート等必要書類の提出をもって厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、提出なし1点、提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーIII SA § 情報処理 SA

13038

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『フォトタッチとホーム・ページ作成』入門...(SBクラスと、同内容)

携帯でもパソコンでもネットワーク上で様々な自己表現ができるが、これらをよりよいものにしていくために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工し、その作品をホーム・ページ上で発表をしていく方法を学ぶ。

なお、画像処理には、Adobe Photoshopを、ホーム・ページ作成には、ソフトを用いる予定である。また、作品は、全世界に向けて発信をする予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。

画像処理の基本。

ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本(1)	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本(2)	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本(3)	合成、レタリング、その他
6	画像処理の基本(4)	合成、レタリング、その他
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題: ホーム・ページ作成(1)	
9	課題: ホーム・ページ作成(2)	
10	課題: ホーム・ページ作成(3)	
11	課題: ホーム・ページ作成(4)	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション(1)	作品発表と採点
14	プレゼンテーション(2)	作品発表と採点
15	プレゼンテーション(3)+まとめ	作品発表と採点+まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ(作品)とプレゼンテーション、採点など。
平常点(日常的)	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。

Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『フォトタッチとホーム・ページ作成』入門...(SAクラスと、同内容)

携帯でもパソコンでもネットワーク上で様々な自己表現ができるが、これらをよりよいものにしていくために、携帯やデジタルカメラで撮影した写真を加工し、その作品をホーム・ページ上で発表をしていく方法を学ぶ。

なお、画像処理には、Adobe Photoshopを、ホーム・ページ作成には、ソフトを用いる予定である。また、作品は、全世界に向けて発信をする予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。

画像処理の基本。

ソフトによるホーム・ページ作成の基本。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎知識のおさらい	パソコンとネットワークの基礎知識
2	撮影と取り込み、ファイル	携帯やデジカメでの撮影、パソコンへの取り込み、ファイル形式
3	画像処理の基本(1)	ソフトの基本操作、明るさなどの調整、レイヤー
4	画像処理の基本(2)	合成、レタリング、その他
5	画像処理の基本(3)	合成、レタリング、その他
6	画像処理の基本(4)	合成、レタリング、その他
7	ホーム・ページ作成の基本	基本操作、ファイル形式
8	課題: ホーム・ページ作成(1)	
9	課題: ホーム・ページ作成(2)	
10	課題: ホーム・ページ作成(3)	
11	課題: ホーム・ページ作成(4)	
12	公開	作品の公開、FTP、更新方法
13	プレゼンテーション(1)	作品発表と採点
14	プレゼンテーション(2)	作品発表と採点
15	プレゼンテーション(3)+まとめ	作品発表と採点+まとめ

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods**

最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	ホーム・ページ(作品)とプレゼンテーション、採点など。
平常点(日常的)	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。

Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目では統計解析ソフトSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。大量のデータを処理する技術だけでなく、得られたデータの相関や散らばり、因果関係など社会的な意味を探求する力を身につけることをも目的とする。具体的には情報処理の基本概念を理解し、主要な計量モデルを概観する。その後、社会調査データを用いた解析と取り組む。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・SPSSを使って基本的な統計解析ができる
- ・解析結果を使ってレポートを作成できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。
自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。
なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会調査と統計解析、統計ソフトSPSSの基礎	
2	記述統計量、計量モデルの概観	
3	量的変数の関連	相関係数
4	質的変数の関連	クロス表分析、カイニ乗検定
5	質的変数の関連	エラボレーション第3変数とは、コントロール、エラボレーションの考えかた
6	2群の差の検定	t検定
7	多変量解析	分散分析
8	多変量解析	因果分析(1)回帰分析
9	多変量解析	因果分析(2)重回帰分析、パス解析
10	多変量解析	因子分析(1)因子分析とは、因子数、回転
11	多変量解析	因子分析(2)因子スコア
12	社会調査データを用いた分析(1)	分析課題の設定とデータ分析、調査分析レポートの作成
13	社会調査データを用いた分析(2)	調査データの解析とレポートの作成
14	社会調査データを用いた分析(3)	解析結果のプレゼンテーション方法
15	社会調査データを用いた分析(4)	解析結果のプレゼンテーションと批評

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	社会調査データを自分なりに解析し、分析したレポートを求める
平常点(日常的)	70 %	毎回の講義で課題出題する。また、質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する。

毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析	室淳子、石村貞夫 / 東京図書 / 9784489020070 / テキストに沿って講義を進めるので必ず購入すること

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

統計学がわかる

向後千春、富永敦子／技術評論社／9784774131900／統計学を全く学んだことがない人はぜひ読んでください。

統計でウソをつく法—数式を使わない統計学入門

ダレル・ハフ／講談社ブルーバックス／4061177206／

講義中にも随時紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義ではWorld Wide Web(WWW)で自分の意見を発信するために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。そのために、Webページを記述する言語HTML (HyperText Markup Language)とHTMLを修飾する仕様CSS(Cascading Style Sheets)の記述法を学び、学内向けの個人サイト作成する。なお、Webサイト作成にはホームページ・ビルダーなどのサイト作成用のソフトは使わないので、注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・数ページからなるWebサイトを企画できる
- ・基本的なHTMLの文法を理解し、それに従ってHTMLファイルを記述できる
- ・基本的なスタイルシートの文法を理解し、それに従ってCSSファイルを記述できる
- ・既存のWebサイトを評価できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。
 自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。
 なお、受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要の確認とコンピュータリテラシーについての知識確認	
2	既存のWebサイトを評価する	既存のWebサイトをチェックリストに従って評価する
3	Webページ制作のプロセスを知る	
4	各自のWebページサイトの企画を立てる	自分なりのテーマを見つけ、サイト作成の企画を行う
5	HTML入門基本ルール	基本的なHTMLのルールについて、サンプルファイルを利用しながら実習を行う
6	HTML入門基本的なHTMLタグ	いくつかのサンプルファイルを利用して、HTMLの書き方を身につける
7	スタイルシート入門	スタイルシートを使って、HTMLファイルの修飾を試す
8-14	個人Webサイト制作期間	自分のペースでサイト作成を行う
15	相互批評会	完成したサイトをお互いに評価しあう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	インターネット上の様々な問題についての考察
平常点(日常的)	80 %	Webサイト構築と毎回の課題提出

課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。積極的に課題に取り組む必要がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
HTMLとスタイルシートによる最新Webサイト作成術	／エクスナレッジ／9784767802503／

参考書 / Reference Books

講義中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト
<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

その他 / Others

情報リテラシーⅢ SE § 情報処理 SE

13039

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義ではC言語によるプログラミングの基礎を実習を通して学ぶ。C言語はオペレーティングシステムUNIX、さまざまなソフトウェアを記述している言語である。また、通産省が行っている情報処理技術者試験で採用されているプログラム言語でもある。C言語を学ぶことにより、コンピュータのしくみや活用法をより深く理解することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・基本的なC言語の文法を理解できる
- ・簡単なプログラムを作成できる
- ・指示に従って基本的なアルゴリズムを使ってプログラム作成できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。
 自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。
 なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コンピュータスキルなどの基本知識を確認する	
2	コンピュータのしくみとプログラム言語	
3	ソースファイル作成とコンパイル	
4	C言語の基本ルール	
5	計算して表示する	
6	変数を利用する	
7	中間テスト	
8	プログラムの流れを変える 条件分岐	
9	プログラムの流れを変える 反復	
10	配列を利用する	
11-13	最終課題に取り組む	
14	プログラム発表会	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	15 %	中間テスト
平常点(日常的)	85 %	内訳は、毎時の課題提出60%、最終課題15%、その他(授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向)10%である。

課題提出による評価に重きを置くので、毎週の予習復習など、自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Cの絵本	アंक / 翔泳社 / 9784798101033 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
パソコンプログラミング入門以前	伊藤華子 / 毎日コミュニケーションズ / 9784839907235 /
C言語プログラミングレッスン入門編	結城浩 / ソフトバンク / 9784797336788 /
プログラミング言語C	B.W.カーニハン / D.M.リッチー / 共立出版 / 9784320026926 /

参考書は必要に応じて講義中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Illustratorによるイラスト作成』入門

コンピュータ上での画像ファイルなどの基礎知識と共に、Webページや、ポスター、ドキュメントなどで使用するイラスト作成の基礎を学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

画像ファイルの基礎。

イラスト作成の基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい: パソコンの基礎	Windowsとその基礎知識、操作方法
2	画像ファイルの基礎	画像の形式、扱うソフト
3	イラスト作成の基礎(1)	ソフト操作の基礎
4	イラスト作成の基礎(2)	絵を描く(1)
5	イラスト作成の基礎(3)	絵を描く(2)
6	課題(1)	課題作成
7	イラスト作成の基礎(4)	各種効果(1)
8	イラスト作成の基礎(5)	各種効果(2)
9	イラスト作成の基礎(6)	各種効果(3)
10	イラスト作成の基礎(7)	各種効果(4)
11	課題(2)-1	課題作成
12	課題(2)-1	課題作成
13	応用方法	Webページでの公開など
14	発表と評価(1)	作品の発表とその評価
15	発表と評価(2)	作品の発表とその評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題作成など。
平常点(日常的)	30 %	実習状況など。

到達状況により、調整を行うことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(512MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

講義中適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中適宜紹介する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『JavaScriptによる動くホーム・ページ作成』入門

「ユビキタス社会」へと変遷していく中で、情報処理の実践として、あるいは自己表現の実践として、コミュニケーション・ツールを積極的に作り出すことを目的とする。具体的には、ネットの基本や情報倫理の習得は勿論、これをベースとし、Webページを作成し、公開する。

ソフトを用いず、いわゆるタグ書きをし、更により豊かなコミュニケーションを行うためによく利用されるJavaScriptの基本を学んでいく。中・上級者向けである。

到達目標 / Attainment Objectives

情報倫理の習得。

Webページの構造の理解。

HTML(タグ書き)を用いたWebページ作成方法。

JavaScriptの基本。

プレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理	Windowsとその基礎知識、情報処理とは
2	情報倫理とネットワークの基礎知識	「インターネット」、「ホーム・ページ」、NET、ネチケット、著作権
3	HTMLの基本1	Webページ、ソース、タグ
4	HTMLの基本2	タグの基本
5	JavaScriptの基本1	HTMLとJavaScriptの関係
6	JavaScriptの基本2	JavaScript、関数、実行
7	サンプル作成1	JavaScriptのサンプル作成
8	サンプル作成2	JavaScriptのサンプル作成
9	サイト作成1	オリジナル・サイトの設計
10	サイト作成2	オリジナル・サイトの作成
11	サイト作成3	中間チェック
12	サイト作成4	公開と修正
13	プレゼンテーション(1)	作品発表と採点
14	プレゼンテーション(2)	作品発表と採点
15	プレゼンテーション(3)+まとめ	作品発表と採点+まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	サイト、プレゼン、採点など。
平常点(日常的)	30 %	実習状況など。

到達状況により、調整を行うことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中適宜紹介する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合演習』...(SNクラスと同内容)

「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編である。

Microsoft Word、Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくには、どうすればよいかを学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windows/パソコンの基礎。

Officeソフトの基礎、応用。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい(1)	パソコンの基礎知識
2	おさらい(2)	Microsoft Wordのポイント
3	イラスト作成の基礎(1)	Microsoft Excelのポイント(1)
4	おさらい(4)	Microsoft Excelのポイント(2)
5	おさらい(5)	NET及びOLEの利用
6	課題(1)	課題作成
7	中級(1)	Web上のデータ利用とレポート作成(1)
8	中級(2)	Web上のデータ利用とレポート作成(2)
9	中級(3)	Microsoft Excelの便利な関数(1)
10	中級(3)	Microsoft Excelの便利な関数(2)
11	課題(2)	課題作成
12	応用(1)	Microsoft Excelのその他の機能: データ・ベース機能
13	応用(2)	その他のソフトとの連携
14	最終課題-1	課題作成
15	最終課題-2	課題作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点(検証テスト)	30 %	課題など。
平常点(日常的)	20 %	実習状況など。

到達状況により、調整を行うことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中適宜紹介する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『プログラミング入門』

パソコン上の全ては、プログラミングによって様々な機能を実現している。本講座では、簡単なゲームなどを作成しながら、プログラミングにおける基本的な思考と発想を学んでいく。

なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。

プログラミングの基礎の理解。

プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション、Windowsおさらい	Windowsとその基礎知識、基本操作
2	アプリケーション・ソフトとプログラミング	OSとアプリケーション・ソフト、プログラミング、Visual Basic
3	プログラミング演習1	Hello World!! : Visual Basicの基本操作
4	プログラミング演習2	Peace: アニメーションの基本1、移動によるアニメーション、条件、柔軟性
5	プログラミング演習3	Wink: アニメーションの基本2、入れ替えによるアニメーション、シンプルさ
6	プログラミング演習4	Wink: アニメーションの基本2、入れ替えによるアニメーション、シンプルさ
7	プログラミング演習5	Calc: 簡単な計算、予期しない結果への対処
8	ゲーム・プログラミング演習1	クリックゲーム(1): 移動と乱数
9	ゲーム・プログラミング演習2	クリックゲーム(2): 点数と制限時間
10	ゲーム・プログラミング演習3	スロット(1): スピンとストップ
11	ゲーム・プログラミング演習4	スロット(2): フィーバーの判定
12	ゲーム・プログラミング演習5	スロット(3): メダルの制御
13	レポート課題作成1	オリジナル・ゲーム作成。
14	レポート課題作成2	オリジナル・ゲーム作成。
15	レポート課題作成3	オリジナル・ゲーム作成。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	レポート課題ほか。
平常点(日常的)	40 %	日常のプログラミング、実習状況など。

到達状況により、調整を行うことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『まなぶ・おしえるプログラミング[まなぶ編]』	上出 浩 / ぶんくら出版 / 4-434-04018-9 /
その他、講義中適宜紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中適宜紹介する。

その他 / Others

情報リテラシーⅢ SJ § 情報処理 SJ

15591

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義ではWorld Wide Web(WWW)で自分の意見を発信するために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。そのために、Webページを記述する言語HTML (HyperText Markup Language)とHTMLを修飾する仕様CSS(Cascading Style Sheets)の記述法を学び、学内向けの個人サイト作成する。なお、Webサイト作成にはホームページ・ビルダーなどのサイト作成用のソフトは使わないので、注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・数ページからなるWebサイトを企画できる
- ・基本的なHTMLの文法を理解し、それに従ってHTMLファイルを記述できる
- ・基本的なスタイルシートの文法を理解し、それに従ってCSSファイルを記述できる
- ・既存のWebサイトを評価できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。
 自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。
 なお、受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。
1. タッチタイピングができること
 2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
 3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要の確認とコンピュータリテラシーについての知識確認	
2	既存のWebサイトを評価する	既存のWebサイトをチェックリストに従って評価する
3	Webページ制作のプロセスを知る	
4	各自のWebページサイトの企画を立てる	自分なりのテーマを見つけ、サイト作成の企画を行う
5	HTML入門基本ルール	基本的なHTMLのルールについて、サンプルファイルを利用しながら実習を行う
6	HTML入門基本的なHTMLタグ	いくつかのサンプルファイルを利用して、HTMLの書き方を身につける
7	スタイルシート入門	スタイルシートを使って、HTMLファイルの修飾を試す
8-14	個人Webサイト制作期間	自分のペースでサイト作成を行う
15	相互批評会	完成したサイトをお互いに評価しあう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	インターネット上の様々な問題についての考察
平常点(日常的)	80 %	Webサイト構築と毎回の課題提出

課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。積極的に課題に取り組む必要がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
HTMLとスタイルシートによる最新Webサイト作成術	／エクスナレッジ／9784767802503／

参考書 / Reference Books

講義中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト
<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 宮浦 崇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「インターネット」上において、多様な形式で情報発信が行われている今日、そこに自らの情報を発信していくスキル獲得は有効である。本講義では、情報リテラシー研鑽のひとつとして、写真・グラフィックを多用したWebページ作成を行う。画像編集にPhotoShopを使用する予定である。また情報倫理等も併せて学習する。

なお、他にもWebページ作成の講義があるが、本講義は画像素材の編集(フォトタッチ)を主眼とした内容になる。その点を確認のうえ受講すること。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・Adobe Photoshopを活用し、Web用素材の作成を習得する。(フォトタッチ・素材作り)
- ・HTMLによるホームページ作成の基礎を学ぶ。(Webページ製作)
- ・ホームページによる情報発信(製作したホームページの公開)
- ・情報倫理の習得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI、および情報リテラシーII

上記科目の履修によって、コンピュータおよびパソコン操作に関する基本的知識・操作を習得した上での受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション、到達目標の確認、大学の情報機器環境の説明	Windows基本操作の確認、使用アプリケーション概説、フォトタッチとは
2	情報倫理とネットワークの基礎知識	情報化社会と著作権、インターネット関連技術の基礎知識
3	PhotoShopを使用した画像編集(フォトタッチ)1	アプリケーション基本操作
4	PhotoShopを使用した画像編集(フォトタッチ)2	色調(color tone)に関する操作
5	PhotoShopを使用した画像編集(フォトタッチ)3	写真素材を用いた画像変形・合成の基礎
6	PhotoShopを使用した画像編集(フォトタッチ)4	写真素材を用いた画像変形・合成の応用
7	Webページ用素材の作成1	PhotoShop上でのテキスト・図形の操作
8	Webページ用素材の作成2	ロゴマーク・バナーの作成
9	Webページの基本構造(HTML)とWebページ作成方法	Macromedia DreamWeaver の使用方法
10	Webページ作成1	最終課題作成にむけた計画立案、素材・情報の収集
11	Webページ作成2	最終課題作成(ファイル転送とウェブ公開の仕組み)
12	Webページ作成3	最終課題作成と公開
13	Webページ作成4	作成したWebページの公開・修正
14	課題提出に向けた確認、相互評価の準備	作品の相互評価の準備
15	課題作品相互評価と、提出にむけた修正	課題作品を公開し、受講生で相互評価、最終評価にむけた修正

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

作品の作成には時間を要するため、講義時間以外も「PhotoShop」で作業をできる環境・時間を確保することが望ましい。(大学のパソコンルームには導入されている)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題作品による評価
平常点(日常的)	30 %	講義中指示する小課題、出席・参加状況等

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考図書、Webサイト等は必要に応じて講義時間中、およびWebCTにて紹介する。

教科書 / Textbooks

Adobe PhotoShop の教材つき教科書を別途指示する

参考書 / Reference Books

参考図書は必要に応じて講義時間中、およびWebCTにて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

参考Webサイトは必要に応じて講義時間中、およびWebCTにて紹介する。

その他 / Others

実習中心の講義進行となるため、欠席した回の補習は各自の責任のもと万全を期すこと。

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Excel発展(関数とデータベース)』

Excelの基礎知識をベースに、より発展的な利用を考えていく。

このクラスでは、基本的な関数を学んだ後、Excelのもう一つの機能である、データベース機能を、出来る限り実践的に学んでいく。情報リテラシーで学んだExcelの表計算機能と本講義で学ぶデータベース機能を習得することで、Excelをよりパワフルな総合ツールとして様々な場面で活用することが可能となる。

本講義修了で、Excelの中級者になることが出来る。

到達目標 / Attainment Objectives

Excelの基礎の習得。

基本的な関数の習得。

データベース機能の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等以上のスキル・レベル。

なお、情報リテラシーⅢ(SH,SN)「Officeソフト総合演習」の修了後、受講すると理解しやすい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Excelの基本のおさらい	セル、シート、表、グラフ、関数、絶対参照
2	Excelの基本のチェック	
3	Excelの基本的な関数	sum, average, max, min, count, ifなど
4	Excelの便利な関数	日付関数、文字列関数
5	データ・ベースとは	データとデータ・ベース、データ・ベースの設計
6	データ・ベース・ツール1	並び替え
7	データ・ベース・ツール2	オートフィルタ
8	データ・ベース・ツール3	フォーム・集計
9	データ・ベース・ツール4	ピボット・テーブル
10	データ・ベース関数1	検索
11	データ・ベース関数2	その他
12	データ・ベース作成演習1	テーマと設計
13	データ・ベース作成演習2	
14	データ・ベース作成演習3	
15	データ・ベース作成演習3	演習+まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題による評価
平常点(検証テスト)	30 %	講義中の課題ほか
平常点(日常的)	20 %	実習状況など。

到達状況により、調整を行うことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講までに、Windows及びExcelの基礎を復習することが望ましい。

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中適宜紹介する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Excel発展(関数とマクロ)』

習得した基本的なExcelの知識をベースに、より発展的な利用を考えていく。

このクラスでは、基本的な関数を学んだ後、様々な便利な関数を学び、そして様々な処理を自動化するマクロ機能を学んでいく。

Officeソフトの中級者・上級者をめざす講義である。

到達目標 / Attainment Objectives

Excelの基礎の習得。

基本的な関数、応用的な関数の習得。

マクロ機能の基礎の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等以上のスキル・レベル。

なお、情報リテラシーⅢ(SH,SN)「Officeソフト総合演習」の修了後、受講すると理解しやすい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Excelの基本のおさらい	セル、シート、表、グラフ、関数、絶対参照
2	Excelの基本のチェック	
3	Excelの基本的な関数	sum, average, max, min, count, ifなど
4	Excelの便利な関数(1)	日付関数、文字列関数
5	Excelの便利な関数(2)	検索(1)
6	Excelの便利な関数(3)	検索(2)
7	マクロとは	処理の自動化とマクロ、「マクロの記録」、ソース
8	マクロの記録	「値のみ貼り付け」、「数式の貼り付け」などのマクロ
9	マクロのカスタマイズ1	繰り返し、時間差
10	マクロのカスタマイズ2	条件による分岐
11	マクロのカスタマイズ3	組み合わせ
12	スロット・ゲームの作成	簡単なスロット・ゲームの作成
13	復習	
14	課題作成(1)	
15	課題作成(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題による評価
平常点(検証テスト)	30 %	講義中の課題ほか
平常点(日常的)	20 %	実習状況など。

到達状況により、調整を行うことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講までに、Windows及びExcelの基礎を復習することが望ましい。

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中適宜紹介する。

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合演習』...(SHクラスと同内容)

「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編である。

Microsoft Word、Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくには、どうすればよいかを学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windows/パソコンの基礎。

Officeソフトの基礎、応用。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	おさらい(1)	パソコンの基礎知識
2	おさらい(2)	Microsoft Wordのポイント
3	おさらい(3)	Microsoft Excelのポイント(1)
4	おさらい(4)	Microsoft Excelのポイント(2)
5	おさらい(5)	NET及びOLEの利用
6	課題(1)	課題作成
7	中級(1)	Web上のデータ利用とレポート作成(1)
8	中級(2)	Web上のデータ利用とレポート作成(2)
9	中級(3)	Microsoft Excelの便利な関数(1)
10	中級(3)	Microsoft Excelの便利な関数(2)
11	課題(2)	課題作成
12	応用(1)	Microsoft Excelのその他の機能: データ・ベース機能
13	応用(2)	その他のソフトとの連携
14	最終課題-1	課題作成
15	最終課題-2	課題作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点(検証テスト)	30 %	課題など。
平常点(日常的)	20 %	実習状況など。

到達状況により、調整を行うことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中適宜紹介する。

その他 / Others

アカデミックP&D S § Academic EnglishV SA

30002

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

Students enrolled on the Sansha English Fukusenko Programme should have completed Academic English I, II & III.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction - What is Debate? How to clarify the resolution.	
2	How to make a convincing point. How to flow the arguments	
3	The First Affirmative Constructive speech (1AC)	
4	The First Negative Constructive speech (1NC). How to refute a point.	
5	Challenging supporting ideas	
6	Review & application: short debates.	
7	How to use holistic reasoning.	
8	Members' Speeches - the 2AC & 2NC; Rebuttal Speeches	
9	Full Debate #1	
10	Full Debate #2	
11	Full Debate #3	
12	Full Debate #4	
13	Full Debate #5	
14	Full Debate #6	
15	Final Examination	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	25 %	
平常点(日常的)	75 %	

Students must complete all coursework (including participation in in-class debates) in order to pass the course.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

No textbook - materials will be provided by the instructor.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アカデミックライティング S § Academic EnglishIV SA

30194

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

This course will help students develop their academic writing and research skills. It will lead students through the process of writing an academic paper: how to make a start with pre-writing exercises; how to research and organize information; how to outline, draft, revise and edit the paper. There will be a particular emphasis on developing students' ability to paraphrase and summarize information from secondary sources.

到達目標 / Attainment Objectives

Students will develop their formal writing skills through 3 projects: a Summary Report, a Cause-Effect Research Paper and an Academic Argument essay. The culmination of the course will be a 'mini-conference' in which students will have the chance to present and discuss their papers.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

Students on the Fukusenko programme should already have completed Academic English I, II and III.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Orientation : The Academic Writing Process	
2	Summarizing a text: identifying main ideas	
3	Creating a summary outline	
4	The Summary Report: Summarizing Information from several sources	
5	Creating a list of references	
6	Structure of a Research Paper	
7	Writing the Introduction / Thesis statement	
8	Using information from printed sources; academic honesty	
9	More practice with paraphrasing sources	
10	Making an outline; Writing with transitions	
11	Writing the conclusion	
12	The Academic Argument Paper	
13	Writing accurate generalizations	
14	Writing definitions	
15	Mini-conference - student presentations & discussion	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	There are 3 written assignments: 1) A Summary Report 2) Cause-Effect Essay 3) Academic Argument Essay Assessment will also reflect students' attendance and participation in class activities

Students must submit all 3 written assignments and any other required work in order to pass the course.

This is a demanding course and homework assignments every week. Students are expected to be highly motivated. Regular attendance is essential.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Foundations of Writing: Developing Research & Academic Writing Skills	Carolyn Spencer & Beverly Arbon / National Textbook Company, 1996 / 0-8442-9354-7 /

Students will need to bring the textbook to every class.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

For guidance on formatting APA-style citations and references see:

担当人名 / Instructor KLAASON TORGNYS.

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

The course consists of a) an Introduction to Swedish History, b) Some analysis of the role of Swedish Neutrality during the Second World War and the Cold War, c) a description of how it happened that Sweden decided to enter the European Union, d) Perspectives on the Social Democratic loss in the General Elections in 2006 and e) the formation of a Government by the Non-Socialist parties in September 2006.

到達目標 / Attainment Objectives

The students should get a basic knowledge about Swedish and European Politics during the Course.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

Studies on the topic "European Politics" and "The European Union".

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1(10月7日(火)、4限)	"Modern Swedish History"	Modern History, the Democratization of Sweden
2(10月7日(火)、5限)	"Swedish Domestic Politics"	The concept of Welfare in Swedish Politics, the Role of the European Union.
3(10月14日(火)、4限)	"International Relations in the Swedish Debate"	The European Union and the surrounding countries.
4(10月14日(火)、5限)	"Sweden and The European Union"	"Europhiles" and "Eurosceptics" in the Swedish Political Debate
5(10月21日(火)、4限)	"European Integration"	How is Domestic Politics Influenced by the European Integration?
6(10月21日(火)、5限)	"Swedish Welfare Policies in the European Union"	Differences and Similarities in Welfare Policies in Europe.
7(10月28日(火)、4限)	"Regional Policies in Sweden and in the European Union"	Regional Policies in Sweden, Structural Politics in the European Union.
8(10月28日(火)、5限)	"The Euro Currency Project in the European Union"	The Euro, the European Central Bank
9(11月4日(火)、4限)	"Different Aspects on European Integration"	Economic, Political and Social Integration.
10(11月4日(火)、5限)	"Foreign Policies in the European Union"	Relations to US, Russia, China and the Rest of the World.
11(11月11日(火)、4限)	"Labor Policies in Sweden and treaties on the European Market"	Wages and Agreements on the Labor Market.
12(11月11日(火)、5限)	"Nationalism in Europe"	Right-wing movements in Eastern and Western Europe
13(11月18日(火)、4限)	"Fortress Europe - Immigration Policies in Sweden and in the Rest of Europe"	Immigration, Refugees in Europe
14(11月18日、5限)	"How Sweden is Governed - different Policy Arenas in Sweden"	The Central, Regional and Local level in the Swedish Public Sector.
15(11月25日(火)、4限)	"Financing Policies the European Union"	The European Budget Process.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Studies on the subject "Northern European Countries".
Read the Literature during the course and Discuss it with your Class Mates.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

授業時に必要資料を配布。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
Politics in the European Union	Bache Ian & George Stephen / Oxford University Press / / 2006
Developments in West European Politics	Jones Erik & Paul Heywood & Martin Rhodes / Palgrave / / 2002
We Europeans	Hill Richard / Europublic / / 1997

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The Government and the Government Office of Sweden. Web: <http://sweden.gov.se>
Swedish Association of Local Authorities and Regions. Web: <http://www.skl.se>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

いかなる社会学を指して現代社会学というのか、私にとっては自明ではない。だが、少なくとも現代社会のありようを考えさせてくれる社会学が、現代の名を冠するに相応しいと思う。その意味で今回は「リスク社会」論を取り上げ、現代社会のリスクのありようの特異性に着目したいと考える。授業は基本文献を定め、それを学生が分担する形で進めたいと思うが、多様な文献を参照して意欲的な研究報告がなされることを期待したい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会がいかなる社会か、それを考える力を身に付けて欲しい。同時に授業に参加する学生が、きちんと本を読み、レジュメをきり、自らの思考・見解を他者に伝えることが出来れば、大成功です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに—自己紹介、授業の進め方の確認、分担の確認	
第2回	担当者の最近の研究について	
第3回—第4回	『リスク社会』、第一部 文明という火山—危険社会の輪郭(その1)	第1章 富の分配と危険の分配の論理
第5回—第6回	同上(その2)	第2章 危険社会における政治的知識論
第7回—第8回	第二部 社会的不平等の個人化(その1)	第3章 階級と階層の彼方
第9回—第10回	同上(その2)	第4章 わたしはわたし—家庭の内と外における男女関係
第11回—第12回	同上(その3)	第5章 生活状況と生き方のモデル—個人化、制度化、標準化
第13回	同上(その4)	第6章 職業労働の脱標準化
第14回	以上の総括—リスク社会とは何か	
第15回	予備日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は学生の分担報告を基本とし、教員はその報告に対する補足報告を受け持つことになる。分担を決めることが重要なので、第1回は全員出席のこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

食欲に本を読むこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
危険社会	ウルリヒ・ベック / 法政大学出版局 / 4-588-00609-6 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リキッド・モダニティ	ジークムント・バウマン / 大月書店 / 4-272-43057-2 /
希望格差社会	山田昌弘 / 筑摩書房 / 4-480-86360-5 /
社会学評論vol.54,no.4/2004	///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

What do social entrepreneurs do, and why are they becoming more active than ever today around the world? Ordinary people are taking actions to solve the social problems where governments and bureaucracies have failed. They have founded nonprofit organizations to support their activities that can help the weakest, the poorest, and the ignored population. We will read about the characteristics of social entrepreneurs; watch a short clip of specific cases (DVD, 10min. each); and discuss about the topic throughout the course.

到達目標 / Attainment Objectives

We will explore how social entrepreneurs find ways that lead to solutions. By the end of the course, students are expected to analyze the differences and similarities between social entrepreneurship and other forms of entrepreneurship (business).

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is conducted *entirely in English* and is open to both graduate and advanced undergraduate students, including non-English-fukusenko students. All required language courses should be completed before taking this course. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment *completed* beforehand.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/29	Introduction: What is social entrepreneurship?	Explanation of Attainment Objectives, Procedures and Grading Methods
10/6	Chapter 1: Restless People	
10/13	Chapter 8: The Role of the Social Entrepreneur	
10/20	India: Train platform schools (DVD 15min.)	NPO: South Asian Coalition on Child Servitude
10/27	New York: Homelessness and Housing	NPO: The Common Ground (DVD 10min)
11/3	Thailand: Education for Girls (DVD) 15min	Prostitution and Child/Women Trafficking
11/10	Chapter 16: Four Practices of Innovative Organizations	
11/17	Bangladesh: The banker to the poor (DVD 15 min.)	
11/24	Project: Grameen Bank, Micro Credit	
12/1	Chapter 17: Disabilities Rights	
12/6 (Sat)	Egypt: Children of Special Needs (DVD) 15min	NPO: Baby Academy
12/8	Chapter 18: Six Qualities of Successful Social Entrepreneurs	
12/15	Individual Presentation (30%)	
12/22	Chapter 21: The Emergence of the Citizen Sector	
1/19	Note: 1/12(Mon) is a national holiday/No Class	In-Class Verification Exam: Final Verification of Attainment Levels and post-exam lecture

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	30 %	In-class
平常点(日常的)	70 %	Participation(50%), Presentation(20%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

We will be watching short visual clips (programs) in class so your attendance is a must.

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
How to Change the World: Social Entrepreneurs and the Power of New Ideas	David Bornstein / Oxford Uni. Press / 978-0-19-533476-0 / Paperback edition (2007)

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

Useful web sites: <http://www.pbs.org/opb/thenewheroes/>

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会学、経済学、政治学などのディシプリンの中での研究がますます細分化するに応じて、少なくともそれらを概観する観点もまた求められる。現代という時代が歴史的経過の堆積であるのと同じように、現代という時代についての問題意識もまた、社会科学の総合的な経過の上で成立している。社会科学を総合的に考える場合、日本の社会科学が輸入学問として始まり、今でも欧米の研究を学ぶことに依存しているという事情を無視することはできない。この授業では、私たちにとって避けることのできない「日本」という状況と社会科学との関係を学びたい。

具体的には、以下の文献と論文を、精読・要約・解説しながら進める。

- ・丸山真男『日本の思想』岩波新書、1961年。
 - ・ハリー・ハルトゥーニアン『近代による超克 戦間期日本の歴史・文化・共同体 上』(梅森直之訳)岩波書店、2007年。
- 「第1章 モダンライフという幻想」(各自用意すること)
 ・分担を決めて、簡単なレジメを用意してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

「社会の科学的研究」の共通の基礎となる研究史と論点を学び、論文作成の前提となる広い視野を形成すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「社会科学」と「社会思想」	テキストの紹介、授業の進め方
2	テキスト、第1章 日本の思想 まえがき	「伝統」と「外来」、「開国」の意味
3	テキスト、第1章 日本の思想 第一節	無構造の「伝統」、逆説や反語の機能転換
4	テキスト、第1章 日本の思想 第二節	「国体」の創出
5	テキスト、第1章 日本の思想 第三節	無責任の体系、共同体的心情
6	テキスト、第1章 日本の思想 第四節	二つの思考様式の対立
7	テキスト、第3章 思想のあり方について1	イメージと現実、ササラ型とタコソボ型
8	テキスト、第3章 思想のあり方について2	国内的鎖国と国際的開国
9	テキスト、第4章 「である」ことと「する」こと1	「である」社会と「する」組織
10	テキスト、第4章 「である」ことと「する」こと2	「する」価値と「である」価値
11	前半まとめと補足	論点まとめ、補足
12	『近代による超克』第1章 モダンライフという幻想1	「文化生活」
13	『近代による超克』第1章 モダンライフという幻想2	街頭生活
14	『近代による超克』第1章 モダンライフという幻想3	消費生活
15	全体まとめ	ハルトゥーニアンの研究の意義、多様な研究課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

分担を決めて、簡単なレジメを用意してもらいます。適宜、追加資料も配布します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席状況、分担報告の水準、討論参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

あらかじめ読んで来ることは必須条件。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本の思想』	丸山真男 / 岩波新書 / /
『近代による超克 戦間期日本の歴史・文化・共同体 上』	ハルトゥーニアン / 岩波書店 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『丸山真男『日本の思想』精読』	宮村治雄 / 岩波書店 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特になし

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会学的な物の見方とは、どのようなものか? 「社会学的」という表現をしばしば耳にするが、その答えは定かではない。それは第1には、これまでの社会学の歴史の中でも様々な見解の対立があったことがある。また第2には、近年の学問的状况の中での社会学の研究対象の多様化にもよる。このような背景から、本講義は「社会学とは何か?」という基本的な問いに、社会学史の立場から取り組んでいくことをめざす。社会学の基本的な発想法や思考法を学びたい、幅広い専門分野をもつ学生・院生の受講を期待する。15回の講義のなかで「社会を社会学的に見る方法」について体系的な知識の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会学説史に即して、「社会学的」な問いの立て方を身につける。
- ・「ミクロ」対「マクロ」、「主体」対「構造」等の、社会学理論の基礎的な対立軸を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- ・社会学史、基礎社会学などを取っていること(あるいは平行して取る)ことが望ましい。ただ、義務ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	
第2回	近代社会の登場と社会学	「社会的」なるものの登場と実証主義
第3回	社会実証主義と方法論的集合主義	社会を「モノ」として捉える欲望
第4回	近代社会の病理と連帯	時代診断の学としての社会学
第5回	方法論的個人主義と理解社会学	他者を「知る」ことの(不)可能性
第6回	近代社会のエートスと行為論的視座	近代を生み出す倫理・近代が生み出す倫理
第7回	主意主義的行為理論と目的論的機能主義	行為と機能の関連を目指して
第8回	社会の体系論的—システム論的分析	社会の「総体」を把握する欲望
第9回	因果的機能分析と中範囲の理論	社会学が「社会学」出来る範囲とは?
第10回	社会の意味論的分析	「私」と「他者」との並立可能性
第11回	人類学的まなざしと社会過程論	意味を生み出し続ける社会
第12回	リアリティのミクロ社会学	演技としての行為
第13回	社会構築主義の功罪	「構築」と「正義」のはざま
第14回	構造—機能主義と再帰的自己	モダニティとアイデンティティ
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

講義形式の授業であるが、随時の質問・コミュニケーションペーパーの活用を通して「分かる」まで授業を行う。参考文献などは、毎回のレジュメに記す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	社会学の持つ「構え」を習得しているか。 ある思想と、その前後、時代背景とのつながりを理解出来ているかで評価する。
平常点(日常的)	30 %	講義中に課す課題や、コミュニケーション・ペーパーの提出状況など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・社会学理論の「見かけ」の難しさに感わされないこと。
- ・「社会」の理論である限り、必ず身近に応用出来るものであることを意識すること。

教科書 / Textbooks

特になし。毎回レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

特になし。毎回のレジュメで各回の内容に関する参考文献を指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代および古典の代表的な社会学理論を分かりやすいテキストに基づいて一通り学んだのちに、授業参加者各自に関心ある特定の理論を報告してもらい、互いに論議し、理論の理解を深める。デュルケーム、ヴェーバー、ミードの社会学理論、さらにマートン、ゴフマン、ブルデュー、コールマンなど特定の理論を重点的に取り上げ、主要な研究成果を紹介し、理論的思考のために何が大切かを明らかにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 代表的な社会学理論についての知識を習得する。
2. 各自の研究テーマにふさわしい理論を見出して、その理論の理解を深める。
3. 理論的な思考を実際の研究に生かすようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学基礎理論S

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の目的と概要	社会学理論の俯瞰 社会学理論の必要性
2	ヴェーバーの社会学理論	比較歴史社会学の方法
3	デュルケームの方法	実証主義 方法論的集合主義
4	ミードの社会学心理学	他者の態度取得のメカニズム
5	マートンの理論	中範囲の理論、機能分析
6	ゴフマンの理論	相互作用、フレーム
7	ブルデューの理論	行為と構造
8	コールマンの理論	合理的選択理論の考え方
9	研究報告ー1	古典から
10	研究報告ー2	古典から
11	研究報告ー3	古典から
12	研究報告ー4	現代理論から
13	研究報告ー5	現代理論から
14	研究報告ー5	現代理論から
15	社会学理論・学説史から学んだこと	理論的思考の要件とそのモデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

上記の講義内容は固定したものでなく、学生の関心に応じて特定の理論に重点を置く形式で進める場合もある。いずれにせよ講義と参加者の発表・討議を主とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	特定の理論を学説史の中から取り上げて、その応用可能性や問題点などを検討したレポートを提出してもらう。レポートへの取り組みの姿勢から評価する。
平常点(日常的)	50 %	授業での研究報告の内容と議論への参加の程度によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

どのようなテーマを研究するにせよ、理論的な視点は重要となるので、できるだけ自分にふさわしいと思われる理論を見出すようにしてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会学のあゆみ	新睦人・ほか / 有斐閣 / 4-641-12302-0 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

児童福祉の理念や意義、子どもを取り巻く社会状況と児童福祉ニーズについて理解を深め、子どもの発達と権利を保障していくために必要な支援、法制度について考察する。

前半はテキストを参考に、分担して研究を行い、レジュメを作成して発表する。その後討論する。

後半は各自興味のあるテーマを選択して、研究を深め、その成果を発表する。その後討論する。

到達目標 / Attainment Objectives

わが国の子どもの現実、家族の実態への理解を深める。

児童福祉問題と社会的背景について検討する。

児童福祉、家族福祉の課題を発見する。

今後の社会福祉改革の方向について洞察を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	わが国の子どもと家族の現実をどう考えるか
2	児童福祉とは何か	児童福祉の歴史、児童福祉法、児童福祉の担い手
3	子どもを取り巻く社会状況と児童福祉ニーズ	児童問題、家族問題、児童福祉の対象とニーズ
4	子どもの権利とわが国の児童福祉	児童福祉の理念、子どもの権利条約、権利保障の歴史
5	児童福祉施策の国際比較	欧米における児童福祉の実態、わが国における児童福祉の実態
6	児童福祉の法制度と実施体制、機関、施設の概要	児童相談所、児童福祉施設等
7	児童福祉施策、サービスの実際(1)	子育て支援、保育サービス、ひとり親家庭サービス等
8	児童福祉施策、サービスの実際(2)	児童養護問題、非行問題、障害児福祉、児童虐待等
9	テーマ別個人発表と討論	
10	テーマ別個人発表と討論	
11	テーマ別個人発表と討論	
12	テーマ別個人発表と討論	
13	テーマ別個人発表と討論	
14	テーマ別個人発表と討論	
15	総括講義	児童福祉施策、児童福祉の担い手をめぐる課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容と関連したテーマでレポートを課し、評価する。
平常点(日常的)	50 %	授業時の発表内容やレジュメ、意見を基に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童福祉論	松原康雄 山県文春 / ミネルヴァ書房 / 4623048322 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

以下の問題を文献講読・テーマ発表を通して考える。

- ・インターネットの発達が発現の自由やプライバシーに及ぼしている影響。
- ・ネット文化で人間関係がどのように変化したのか。
- ・著作権についての基本的理解とコンテンツ政策の是非。
- ・公共財としてのメディアインフラの構造の理解と制度整備の整合性。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要・問題意識の共有のための議論	
第2回	文献講読(1) : インターネット社会の概要を理解する	
第3回	文献講読(2) : サイバー社会の現状認識	
第4回	文献講読(3) : プライバシーとコントロール	
第5回	文献講読(4) : ネット社会は危険なのか	
第6回	文献講読(5) : 著作権・著作隣接権	
第7回	文献講読(6) : クリエーターの権利・市民の権利	
第8回	文献講読(7) : デジタルで何が変わったのか	
第9回	ケーススタディ(1) : 個人発表と討論	
第10回	ケーススタディ(2) : 個人発表と討論	
第11回	ケーススタディ(3) : 個人発表と討論	
第12回	ケーススタディ(4) : 個人発表と討論	
第13回	ケーススタディ(5) : 個人発表と討論	
第14回	ケーススタディ(6) : 個人発表と討論	
第15回	まとめの議論と補足	

(受講者数によって変わるため、暫定的なものです)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・文献講読、テーマ別発表とも受講者による発表とディスカッションにより行う。
- ・最低でも新聞は毎日目を通すこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは基本的に個人発表のテーマを発展させたもの。形式は追って指示する。
平常点(日常的)	50 %	クラス内発表と討論にどれだけ参加しているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

クラス内で指示する。

参考書 / Reference Books

クラス内で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会学、経済学、政治学などのディシプリンの中での研究がますます細分化するに依りて、少なくともそれらを概観する観点もまた求められる。現代という時代が歴史的経過の堆積であるのと同じように、現代という時代についての問題意識もまた、社会科学の総合的な経過の上で成立している。社会科学を総合的に考える場合、日本の社会科学が輸入学問として始まり、今でも欧米の研究を学ぶことに依存しているという事情を無視することはできない。この授業では、私たちに於て避けることのできない「日本」という状況と社会科学との関係を学びたい。

具体的には、以下の文献と論文を、精読・要約・解説しながら進める。

- ・丸山真男『日本の思想』岩波新書、1961年。
 - ・ハリー・ハルトゥーニアン『近代による超克 戦間期日本の歴史・文化・共同体 上』(梅森直之訳)岩波書店、2007年。
- 「第1章 モダンライフという幻想」(各自用意すること)
 ・分担を決めて、簡単なレジメを用意してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

「社会の科学的研究」の共通の基礎となる研究史と論点を学び、論文作成の前提となる広い視野を形成すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「社会科学」と「社会思想」	テキストの紹介、授業の進め方
2	テキスト、第1章 日本の思想 まえがき	「伝統」と「外来」、「開国」の意味
3	テキスト、第1章 日本の思想 第一節	無構造の「伝統」、逆説や反語の機能転換
4	テキスト、第1章 日本の思想 第二節	「国体」の創出
5	テキスト、第1章 日本の思想 第三節	無責任の体系、共同体的心情
6	テキスト、第1章 日本の思想 第四節	二つの思考様式の対立
7	テキスト、第3章 思想のあり方について1	イメージと現実、ササラ型とタコソボ型
8	テキスト、第3章 思想のあり方について2	国内的鎖国と国際的開国
9	テキスト、第4章 「である」ことと「する」こと1	「である」社会と「する」組織
10	テキスト、第4章 「である」ことと「する」こと2	「する」価値と「である」価値
11	前半まとめと補足	論点まとめ、補足
12	『近代による超克』第1章 モダンライフという幻想1	「文化生活」
13	『近代による超克』第1章 モダンライフという幻想2	街頭生活
14	『近代による超克』第1章 モダンライフという幻想3	消費生活
15	全体まとめ	ハルトゥーニアンの研究の意義、多様な研究課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

分担を決めて、簡単なレジメを用意してもらいます。適宜、追加資料も配布します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席状況、分担報告の水準、討論参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

あらかじめ読んで来ることは必須条件。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本の思想』	丸山真男／岩波新書／／
『近代による超克 戦間期日本の歴史・文化・共同体 上』	ハルトゥーニアン／岩波書店／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『丸山真男『日本の思想』精読』	宮村治雄／岩波書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特になし

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会学的な物の見方とは、どのようなものか? 「社会学的」という表現をしばしば耳にするが、その答えは定かではない。それは第1には、これまでの社会学の歴史の中でも様々な見解の対立があったことがある。また第2には、近年の学問的状况の中での社会学の研究対象の多様化にもよる。このような背景から、本講義は「社会学とは何か?」という基本的な問いに、社会学史の立場から取り組んでいくことをめざす。社会学の基本的な発想法や思考法を学びたい、幅広い専門分野をもつ学生・院生の受講を期待する。15回の講義のなかで「社会を社会学的に見る方法」について体系的な知識の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会学説史に即して、「社会学的」な問いの立て方を身につける。
- ・「ミクロ」対「マクロ」、「主体」対「構造」等の、社会学理論の基礎的な対立軸を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- ・社会学史、基礎社会学などを取っていること(あるいは平行して取る)ことが望ましい。ただ、義務ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	
第2回	近代社会の登場と社会学	「社会的」なるものの登場と実証主義
第3回	社会実証主義と方法論的集合主義	社会を「モノ」として捉える欲望
第4回	近代社会の病理と連帯	時代診断の学としての社会学
第5回	方法論的個人主義と理解社会学	他者を「知る」ことの(不)可能性
第6回	近代社会のエートスと行為論的視座	近代を生み出す倫理・近代が生み出す倫理
第7回	主意主義的行為理論と目的論的機能主義	行為と機能の関連を目指して
第8回	社会の体系論的—システム論的分析	社会の「総体」を把握する欲望
第9回	因果的機能分析と中範囲の理論	社会学が「社会学」出来る範囲とは?
第10回	社会の意味論的分析	「私」と「他者」との並立可能性
第11回	人類学的まなざしと社会過程論	意味を生み出し続ける社会
第12回	リアリティのミクロ社会学	演技としての行為
第13回	社会構築主義の功罪	「構築」と「正義」のはざま
第14回	構造—機能主義と再帰的自己	モダニティとアイデンティティ
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

講義形式の授業であるが、随時の質問・コミュニケーションペーパーの活用を通して「分かる」まで授業を行う。参考文献などは、毎回のレジュメに記す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	社会学の持つ「構え」を習得しているか。 ある思想と、その前後、時代背景とのつながりを理解出来ているかで評価する。
平常点(日常的)	30 %	講義中に課す課題や、コミュニケーション・ペーパーの提出状況など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・社会学理論の「見かけ」の難しさに感わされないこと。
- ・「社会」の理論である限り、必ず身近に応用出来るものであることを意識すること。

教科書 / Textbooks

特になし。毎回レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

特になし。毎回のレジュメで各回の内容に関する参考文献を指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代および古典の代表的な社会学理論を分かりやすいテキストに基づいて一通り学んだのちに、授業参加者各自に関心ある特定の理論を報告してもらい、互いに論議し、理論の理解を深める。デュルケーム、ヴェーバー、ミードの社会学理論、さらにマートン、ゴフマン、ブルデュー、コールマンなど特定の理論を重点的に取り上げ、主要な研究成果を紹介し、理論的思考のために何が大切かを明らかにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 代表的な社会学理論についての知識を習得する。
2. 各自の研究テーマにふさわしい理論を見出して、その理論の理解を深める。
3. 理論的な思考を実際の研究に生かすようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学基礎理論S

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の目的と概要	社会学理論の俯瞰 社会学理論の必要性
2	ヴェーバーの社会学理論	比較歴史社会学の方法
3	デュルケームの方法	実証主義 方法論的集合主義
4	ミードの社会学心理学	他者の態度取得のメカニズム
5	マートンの理論	中範囲の理論、機能分析
6	ゴフマンの理論	相互作用、フレーム
7	ブルデューの理論	行為と構造
8	コールマンの理論	合理的選択理論の考え方
9	研究報告ー1	古典から
10	研究報告ー2	古典から
11	研究報告ー3	古典から
12	研究報告ー4	現代理論から
13	研究報告ー5	現代理論から
14	研究報告ー5	現代理論から
15	社会学理論・学説史から学んだこと	理論的思考の要件とそのモデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

上記の講義内容は固定したものではなくて、学生の関心に応じて特定の理論に重点を置く形式で進める場合もある。いずれにせよ講義と参加者の発表・討議を主とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	特定の理論を学説史の中から取り上げて、その応用可能性や問題点などを検討したレポートを提出してもらう。レポートへの取り組みの姿勢から評価する。
平常点(日常的)	50 %	授業での研究報告の内容と議論への参加の程度によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

どのようなテーマを研究するにせよ、理論的な視点は重要となるので、できるだけ自分にふさわしいと思われる理論を見出すようにしてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会学のあゆみ	新睦人・ほか / 有斐閣 / 4-641-12302-0 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

児童福祉の理念や意義、子どもを取り巻く社会状況と児童福祉ニーズについて理解を深め、子どもの発達と権利を保障していくために必要な支援、法制度について考察する。

前半はテキストを参考に、分担して研究を行い、レジュメを作成して発表する。その後討論する。

後半は各自興味のあるテーマを選択して、研究を深め、その成果を発表する。その後討論する。

到達目標 / Attainment Objectives

わが国の子どもの現実、家族の実態への理解を深める。

児童福祉問題と社会的背景について検討する。

児童福祉、家族福祉の課題を発見する。

今後の社会福祉改革の方向について洞察を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	わが国の子どもと家族の現実をどう考えるか
2	児童福祉とは何か	児童福祉の歴史、児童福祉法、児童福祉の担い手
3	子どもを取り巻く社会状況と児童福祉ニーズ	児童問題、家族問題、児童福祉の対象とニーズ
4	子どもの権利とわが国の児童福祉	児童福祉の理念、子どもの権利条約、権利保障の歴史
5	児童福祉施策の国際比較	欧米における児童福祉の実態、わが国における児童福祉の実態
6	児童福祉の法制度と実施体制、機関、施設の概要	児童相談所、児童福祉施設等
7	児童福祉施策、サービスの実際(1)	子育て支援、保育サービス、ひとり親家庭サービス等
8	児童福祉施策、サービスの実際(2)	児童養護問題、非行問題、障害児福祉、児童虐待等
9	テーマ別個人発表と討論	
10	テーマ別個人発表と討論	
11	テーマ別個人発表と討論	
12	テーマ別個人発表と討論	
13	テーマ別個人発表と討論	
14	テーマ別個人発表と討論	
15	総括講義	児童福祉施策、児童福祉の担い手をめぐる課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容と関連したテーマでレポートを課し、評価する。
平常点(日常的)	50 %	授業時の発表内容やレジュメ、意見を基に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童福祉論	松原康雄 山県文春 / ミネルヴァ書房 / 4623048322 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

以下の問題を文献講読・テーマ発表を通して考える。

- ・インターネットの発達が発現の自由やプライバシーに及ぼしている影響。
- ・ネット文化で人間関係がどのように変化したのか。
- ・著作権についての基本的理解とコンテンツ政策の是非。
- ・公共財としてのメディアインフラの構造の理解と制度整備の整合性。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要・問題意識の共有のための議論	
第2回	文献講読(1) : インターネット社会の概要を理解する	
第3回	文献講読(2) : サイバー社会の現状認識	
第4回	文献講読(3) : プライバシーとコントロール	
第5回	文献講読(4) : ネット社会は危険なのか	
第6回	文献講読(5) : 著作権・著作隣接権	
第7回	文献講読(6) : クリエーターの権利・市民の権利	
第8回	文献講読(7) : デジタルで何が変わったのか	
第9回	ケーススタディ(1) : 個人発表と討論	
第10回	ケーススタディ(2) : 個人発表と討論	
第11回	ケーススタディ(3) : 個人発表と討論	
第12回	ケーススタディ(4) : 個人発表と討論	
第13回	ケーススタディ(5) : 個人発表と討論	
第14回	ケーススタディ(6) : 個人発表と討論	
第15回	まとめの議論と補足	

(受講者数によって変わるため、暫定的なものです)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・文献講読、テーマ別発表とも受講者による発表とディスカッションにより行う。
- ・最低でも新聞は毎日目を通すこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは基本的に個人発表のテーマを発展させたもの。形式は追って指示する。
平常点(日常的)	50 %	クラス内発表と討論にどれだけ参加しているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

クラス内で指示する。

参考書 / Reference Books

クラス内で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others